

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第74回総会演説抄録 ——

平成21年5月23・24日 於 新潟ユニゾンプラザ（新潟市）

（第63回日本呼吸器学会
第48回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第33回日本サルコイドーシス学会）

集会長 小 池 輝 明（新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 関節リウマチに対しINH予防内服を併用したインフリキシマブ投与中に発症した耐性結核の1例 °桑原克弘・宮尾浩美・斎藤泰晴・大平徹郎（NHO西新潟中央病呼吸器）高田俊範（新潟大呼吸器内科学分野，第二内）鈴木栄一（同医歯学総合病総合診療部）
症例は38歳女性。23歳時発症の進行性RAに対しインフリキシマブが開始された。同時にツ反陽性からINH

予防内服も併用された。投与1年2カ月で多量排菌状態のINH耐性肺結核を発症した。RAの生物学的製剤治療では特に結核発症が問題となるが本例では適切な予防投与でも耐性結核を発病した。QFTによるより精密な感染診断やCTを使った比較的長期に及ぶ定期検診も考慮すべきである。